

I 活動報告

国際研究交流部・担当理事：矢野博之

1. 課題研究スタート時の問題設定

基本方針として、本部会は“交流”（情報の交換・共有、啓蒙・提供）を主軸とすることを確認する作業から仕切り直し、大別して以下3つの軸をもって活動展開を構想した。

- ①. 会員の教師教育研究を国際化するための情報提供【啓発・支援】
- ②. 国際研究交流の案内・情報提供【啓発】
- ③. 国際研究交流の実施（企画、招聘・誘致）【交流・促進】

2. 部会メンバー

〈担当理事〉矢野博之（大妻女子大学）、〈担当理事 *～2018年度〉百合田真樹人（教職員支援機構→OECD） 〈コアメンバー〉：香川奈緒美（島根大学）、森久佳（大阪市立大学）、深見俊崇（島根大学）、荒巻恵子（帝京大学教職大学院）、金井香里（武蔵大学）他、登録学会員 25名

3. 活動概況（時系列）

〈2017年度（2017年9月～2018年3月）〉 ※担当者間での非公式の打ち合わせのみ
〈2018年度〉

- 5月20日（日）第1回研究会「教師教育に関する国際的研究動向(1): Reimagining Teacher Education Symposium(2018.3.8-9@香港大学)の紹介と報告」講師：千々布敏弥（国立教育政策研究所）@大妻女子大学，参加者9名
 - 8月26日（日）第2回研究会「教師教育に関する国際的研究動向(2): 国際的調査研究への参画から得られた認識と研究課題の変化」講師：森久佳（大阪市立大学）@大妻女子大学，参加者7名
 - 9月29-30日 啓発ポスター『似非研究会・似非学会誌に注意！』の作成と掲示、同パンフレットの配布（100枚）@東京学芸大学・日本教師教育学会第28回大会
 - 11月10日（土）第3回研究会「教師教育に関する国際的研究動向(3): 国際的調査研究への参画から得られた認識と研究課題の変化II / UNESCO / OECD Forum / TALIS 初期教員準備調査への参加を通して」講師：森久佳（大阪市立大学）@アットビジネスセンターPREMIUM 新大阪，参加者7名
 - 2019年1月14日（月）「WERA2019 に向けての翻訳プロジェクト」第1回研究会 @大妻女子大学，参加者26名
 - 2019年3月18日（月）「WERA2019 に向けての翻訳プロジェクト」第2回研究会 @大妻女子大学，参加者19名（skype参加含む）
- 〈2019年度〉
- 4月6日（土）「WERA2019 に向けての翻訳プロジェクト」第3回研究会 @教職員支援機構 大手町事務所，参加者18名
 - 6月2日（日）「WERA2019 に向けての翻訳プロジェクト」第4回研究会 @大妻女子大学，参加者14名（skype参加含む）

- 7月28日(日)「WERA2019に向けての翻訳プロジェクト」第5回研究会 @大妻女子大学, 参加者12名 (skype参加含む)
- 8月7日(水) 世界教育学会(WERA 10th)ミニ・シンポジウム「Missing Rhetorics of Education in Japan : Dialogue on Rethinking Education and Teacher Education in Japan」 @学習院大学, 参加者20名 話題提供①香川奈緒美(島根大学) Persistence of Utilitarian Ideology in Japan: Call for a New Paradigm ②荒巻恵子(帝京大学) Rhetoric and Practice of Inclusiveness in Japan's Teacher Education ③金井香里(武蔵大学) Reinstating the Diversity as a Medium for Rethinking Education and Teacher Education in Japan 司会:森久佳(大阪市立大学)・矢野博之(大妻女子大学) 指定討論者:矢野博之
- 11月9日(土) 第6回教師教育変容の実態をつかむ情報交流・研究会「2019WERA シンポジウム報告 Missing Rhetoric of Education in Japan : Dialogue on Rethinking Education and Teacher Education of Japan」理事会向け再演 @明治大学, 参加者20名 報告①矢野博之(大妻女子大学)、②森久佳(大阪市立大学)、③香川奈緒美(島根大学)、④深見俊崇(島根大学)
- 11月10日(日) 「2019WERA シンポジウム “Missing Rhetoric of Education in Japan : Dialogue on Rethinking Education and Teacher Education in Japan” 日本語版再演 @大妻女子大学, 参加者11名 進行:矢野博之(大妻女子大学)、報告①森久佳(大阪市立大学)、②香川奈緒美(島根大学)、③荒巻恵子(帝京大学教職大学院)、④金井香里(武蔵大学)
- 1月24日(金) 国際研究交流部主催 翻訳プロジェクト・コアメンバーによるミニ研究会「刊行本原稿の持ち寄り読み合わせ」@大妻女子大学, 参加者6名
(2020年度)
- 2020年9月13日(日) ポスター発表 「国際研究交流部・第10期報告―“学会”としての国際研究交流の現在とこれから」 @明治大学・日本教師教育学会第30回大会

4. 研究成果と見えてきた課題

- (1) 公開研究会:2018年秋まで、国外の教師教育研究をめぐるアカデミズムの動向や、OECDやUNESCOにみる国際研究調査の内情と方向性の情報交換研究会を重ね、日本の教師教育研究上の領域や視点、evidence問題を議論し、国際展開上の課題を共有していった。
- (2) 学会啓発資料の作成と配布:教育研究の国際化は世界的に加速拡大するなか、「エセ学会」「エセ学会誌」が急増してきた状況を受け、『似非研究会・似非学会誌に注意!』のリーフレットを作成し(100枚)、2018年第28回研究大会で配布、後にWeb公開した。
- (3) 啓発・支援をにらんだ翻訳企画と国際カンファレンスでのシンポジウム:国際的調査研究の状況把握や参画経験の共有を端に議論し、研究視点の国際化と国際的な文脈での経験と機会の供給を図るため、UNESCO刊行の“Rethinking Education“(2015)の独自翻訳を企画し、教師教育研究の文脈で活用することを目指すプロジェクトを始動した。

これを受けて10th WERA(2019.8.7)でのシンポジウムとしてコアメンバー(矢野,森,香川,荒巻,金井の学会員)による実施に結実し、UNESCOが投げかけた議論を、日本の教育界にどう照射し問いかけるべきか、主に3つのword=視点(well-being, Inclusiveness, Diversity)からその課題の探索と提示を試みた。

翻訳刊行作業は 2019 年秋以降、会合を続けたが 2020 年 1 月末を最後に Covid-19 禍により対面での会合は中断。その後研究の深化と WERA の議論をふまえ発展させるため、オンライン上での意見交換と原稿の検討・編集作業に移っている (2020 年 3 月末時点進行中)。

5. 第 11 期研究活動への提言

今期 “国際交流のあり方” を軸に運営してきたが、奇しくも Covid19 禍により新たな社会のあり方が問われ、今後ひとのつながりや集い方、情報や研究活動の実働についても、抜本的な問い直しが進んでいくだろう。教師教育研究自体もその自律性と学際性を保持し高めつつ、発信受信・交流のあり方もひとの動き・社会のつながり方の変化に伴い再考が求められる。学会としての組織的対応は、検討と踏み出しを喫緊の課題として残している。